

煎茶文化の統合——序にかえて

MIHO MUSEUM 館長 熊倉 功夫

煎茶文化とは何か、という設問に、精神論や茶器をもって答えるのではなく、煎茶の空間としての建築と庭園からアプローチする画期的な一書が誕生した。入ったとたんに、あつこれは煎茶趣味だ、と強い印象を受ける座敷や庭に出逢うことは多々あるが、その印象がどこからきて、どういう特質があるのか、総合的に解明する書物は今までなかった。

煎茶は近代黎明期にあつては抹茶の文化を圧倒する勢いがあつた。また煎茶は日本人の日常生活に密着し、抹茶が芸道の中にのみ活きたのに対し、より広い国民的支持を受ける飲みものである。にもかかわらず煎茶の文化が文化として大きく実らないのは何故か。煎茶文化と煎茶の習俗がいささか乖離していることにその理由はないであろうか。

煎茶文化を支えるものは江戸時代後期に成熟した煎茶趣味である。それは琴棋書画を楽しむ教養と高雅清澄の精神が求められる。しかしそれはしばしば高踏的なディレッタンティズムにおちいり易い。煎茶文化が広く社会に受けいれられる方向をとる現代の煎茶道の文化は、煎茶の味と香りを追求して、文人的な煎茶趣味からははなはだ遠ざかっている

ように思える。広く大衆化する煎茶道の世界と本来の煎茶趣味の統合が、今求められる。

私の知る六世小川後楽さんは、その統合を見事に果たした人物であった。後楽さんと出会ったのはほぼ五〇年前。まだ楢林忠男と名乗る文化史家であった。彼のもとで杉本秀太郎さんや大和大路のバー眞理さんたちと煎茶の稽古をするようになったのは、それから間もなくの頃であったと思う。その教授ぶりは高踏に過ぎず俗に墮さず、誠に心地よいものであった。今こそ求められる統合された煎茶文化がそこにあった。この後楽さんのたたずまいが、本書の随所にとどめられていることがありがたい。

さきにも述べたことだが、近代日本の煎茶文化は大きな遺産を残した。明治・大正と煎茶文化が放った光芒が忘れられてはなるまい。近代の数寄者原三溪も住友春翠も煎茶から抹茶に進んだ。それを考えると、もう一つの統合が求められていることに気づく。煎茶と抹茶の文化の統合である。

二五年前に発足した茶の湯文化茶会は、狭義の茶の湯にとらわれず、日本で展開した茶の文化を総体として把えることを目標としている。当然、抹茶の茶の湯、煎茶の茶の湯、さらに番茶など民俗の中の茶の湯全体を包含し、その統合の中に日本の茶の文化の探求と創造を求めている。

抹茶の茶の湯の研究もようやく近年盛んになり若い人びとの研究も輩出している。しかしそれにくらべると、煎茶の茶の湯も民俗の茶の湯も研究の入口にあるといえぬことはな

い。楢林忠男（小川後楽）氏が昭和四十六年に『煎茶の世界』を上梓した時、ついに新しい煎茶文化概説書が誕生したと、大いに喜んだものである。そして、ここに庭園研究の泰斗尼崎博正氏を中心に、新しい煎茶研究の最前線の成果がまとめられた。小川後楽氏が求めた煎茶の研究と実践の統合の成果と、煎茶と抹茶の文化を統合する新しい研究の視点が、本書によって示されたことに慶賀の意を表するとともに、ここに序文を寄せることを許された光栄を謝する次第である。

庭と建築の煎茶文化——近代数寄空間をよみとく◆目次

煎茶文化の統合——序にかえて

熊倉 功夫

第Ⅰ部 近代数寄空間と煎茶趣味

第1章 近代庭園の空間的特質と煎茶…………… 尼崎 博正 3

第2章 煎茶の場と環境…………… 矢ヶ崎善太郎 29

第3章 煎茶席の意匠的特質…………… 麓 和善 48

コラム1 植治と箒庵と有朋…………… 尼崎 博正 85

コラム2 小川可進——初代後楽…………… 六世 小川 後楽 87

第Ⅱ部 煎茶流行の時代

第4章 煎茶文化…………… 六世 小川 後楽 95

補 論 煎茶の庭——その希求する源的世界…………… 六世 小川 後楽 118

第5章	文人煎茶の庭	140
第6章	煎茶席と近代和風住宅	155
第7章	近代数寄者の煎茶と文人趣味	164
第8章	明治のニッポンにて、 外国人がであった〈cha no yu〉と庭園	182
コラム3	山紫水明処	205
コラム4	甦る煎茶席——草野家・中津万象園	208
第Ⅲ部 煎茶趣味の広がり		
第9章	煎茶席の歴史的・地域的特質	215
第10章	各地の煎茶文化——その伝播の要因および経路	238
第11章	煎茶文化の伝播と普及	261
コラム5	涉成園の四方の門——西門から入園した頼山陽	272
特論	「煎茶」の思想的・政治的景観	279
終章	近代数寄空間の特質——煎茶と抹茶の融合	290

あとがき

尼崎 博正

付録 煎茶の要素を含む数寄空間一覧
索引（人名、庭園・建築名）
執筆者紹介

〔口絵写真提供〕

口絵1～4…麓和善

口絵5…對龍山莊

北方文化博物館三楽亭	
→伊藤家住宅三楽亭	
(旧)堀氏庭園、堀家	268, 323
ま	
益田克徳邸(無為庵)	→無為庵
益田孝(鈍翁)邸	5, 7, 8, 85
(旧)丸三森家(現大河原家)悠然亭	57
萬福寺有聲軒・売茶堂	34, 78, 175, 229, 320
む	
無為庵	5, 7, 85, 296, 297
無何有荘大醒榭	50, 64, 82, 83, 104, 234, 253, 312
向島百花園	140
無心庵	296
無隣庵(無鄰菴)	6, 9, 12~15, 22~24, 27, 42, 43, 86, 144, 151, 238, 255, 318
め・も	
明月閣	229
網師園濯纓水閣	82
旧毛利家別邸花江御殿	156, 234
や	
八坂耕雲園	44
山泉邸	8
山中看松居	27, 42

山中定次郎邸	24, 298
ゆ	
幽月亭	296
有芳園	14, 107
よ	
揚輝荘	162, 313
養翠園	257, 258, 321
浴恩園	248, 249
(旧)横山家住宅	156
横山邸(現・智水庵)	27, 42
ら・り	
楽々園	→玄宮楽々園
六園	248
栗林公園	50, 60, 234, 245, 246, 326
流響院(真如苑真澄寺別院)	26, 117, 144, 151, 316
料亭花月	328
林華園	42
れ・ろ	
蓮池亭	40
弄珠亭	223, 235
蘆花浅水荘	74, 117, 141, 145, 314
わ	
和楽園	269

そ	
叢桂园	256, 329
漱枕居	34
染谷氏別荘聚遠亭	24
た	
大長寺	232
對龍山莊	14, 15, 25, 317
高津屋伊藤博石堂(伊藤家)	264, 265, 322
(旧)高橋家住宅	156, 157
高橋義雄邸(番町邸)	5, 7, 8, 85
多胡家	266
田中光顯邸	5
田淵氏庭園、明遠楼・春陰斎	241, 321
玉塚氏の別墅の庭園	142
ち	
(旧)竹田莊	117, 330
竹梁斎	229
釣耕園	80, 256, 329
聴竹居	25, 162
長楽寺梅枝亭	106, 225
椿山莊	5, 85
つ	
塚本与三次邸	14, 27, 42, 298
と	
(旧)戸島家住宅	50, 58, 233, 327
豊田喜一郎邸	162
な	
長尾山莊	300, 301
長尾邸	144
中津万象園	50, 54, 82, 208, 233, 243, 325
中埜家	226, 241
中邨楼	227, 232
(旧)名古屋城竹長押御茶屋	234
鍋島侯爵邸	5
並河邸(並河靖之七宝記念館)	193, 197, 198, 319
南湖	248
南禅寺順正	262

に	
二条三井邸	9
の	
(旧)野崎家住宅・野崎家塩業歴史館	323
野村邸・野村別邸碧雲莊	14, 15, 26, 27, 42, 107, 144, 174, 317
は	
白雲洞	170
白沙村莊	76, 82, 117, 145, 147, 318
花江茶亭	234, 325
海莊	248
早川家	158
原六郎邸・原氏高輪邸	5, 6
原邸(環翠園、現・大寧軒)	27, 42
萬松園	160
ひ	
松久家梅山別邸	160
土方伯爵邸	6
日比谷平左衛門邸	5
平井邸	42
広瀬歴史記念館 旧広瀬邸	327
ふ	
福禅寺	223
藤田家新本邸	300
藤田邸	42
富春亭	26
不染庵	171
鮎宇亭・鮎宇楼・船卯楼	228, 232, 298
古川虎之助邸	14
へ	
平安神宮神苑	8, 14, 86
碧雲莊	→野村邸
ほ	
蓬萊園	5
星岡茶寮	188
細川氏怡園	14
細谷家住宅	69, 157, 307
北国街道安藤家	313

勝川家 161
 桂離宮 238, 240, 243, 248, 259, 287, 289
 金沢21世紀美術館茶室 松涛庵 310
 河陽(賀陽)離宮 247
 伽藍洞一木庵 86
 臥龍山莊 70, 82, 242, 326
 咸宜園 256

き

枳殻亭 137, 138
 其日庵 296
 居然亭 38

く

草野本家 67, 208, 330
 久原氏別邸 24
 久原邸 42
 久原氏小堀邸 14
 (旧)藏内邸 328

け

慶沢園 299, 300
 玄宮楽々園 34, 50, 59, 82, 104, 234, 243, 255, 314
 兼六園 244

こ

小石川後楽園 245, 249
 高台寺(鬼瓦席・岡林院・松林院) 42, 46, 106, 232
 黄葉夕陽村舎 256
 (岡山)後楽園 234, 244, 246, 300, 324
 後楽堂 117
 午松庵 291

さ

(円山)左阿弥楼 44, 45, 106, 227, 232, 299
 西行庵(皆如庵) 42, 44, 45
 櫻井家住宅・庭園 180, 322
 桜山莊庭園 146
 桜宮 232
 三郭四園 248
 三癸亭 32, 114, 125~127, 129, 136, 137
 山紫水明処 16, 50, 56, 82, 89, 113,
 117, 137, 205, 212, 233, 241, 315

し

(清水)紫翠軒 26, 42
 (旧)閑谷学校黄葉亭 50, 55, 82, 233, 244, 256, 324
 詩仙堂 137, 138, 140, 287, 289
 渋沢栄一郎・渋沢別邸 5~7
 清水氏十牛庵 14
 下郷氏別邸・清流亭 24
 修学院離宮 137, 138, 238, 240, 246,
 248, 250, 259, 260, 287, 289
 縮遠亭 34
 縮景園 243
 (円山)正阿弥 106, 223, 225, 232
 松源楼 227
 涉成園 111, 272, 287, 289, 294, 295, 319
 松殿山莊 34, 173, 320
 城南莊旧横山邸 310
 松風邸 42
 青蓮院 34, 42
 織宝苑 →流響院
 白山氏別業 232
 信州須坂豪商の館田中本家博物館 311
 新々亭 296
 神泉苑 247
 新町三井邸 9

す

水前寺成趣園 243
 瑞芳院 229
 鈴木家住宅蔵座敷 157
 寸松庵 296

せ

成巽閣三華亭 34, 50, 62, 83, 104, 234, 235, 311
 清風莊 14, 21, 22, 24
 清流亭 26
 仙巖園 244
 潺湲亭(石村亭) 117, 149, 151
 千光寺 253
 千歳楼 159
 千秋館 249
 仙洞御所 287, 289

山本誉吉 223

ゆ

熊明遇 37

湯本文彦 8, 9

よ

葉雋永之 216

吉田兼儔 58

吉永義信 140, **144**

世継伯周 38

ら

頼復(支峰) 71, 106, 205

頼杏坪 250

頼庫山 205

頼山陽 19, 21, 25, 49, 56, 57, 71, 82, 86,

88, 89, 103, 104, 113, 115, 117, 137, 205,

210, 212, 234, 241, 243, 246, 248~255,

257, 259, 262, **272**, 285, 294, 295

頼春水 56, 243

楽旦入 257

嵐翠子 217

り

陸羽 32, 33, 96~98, 110, 112, 114, 122~

125, 127~129, 133, 135~137

陸樹声 99

李白 130, 249

ろ

碌々斎 →千宗左

盧仝 97~99, 101~104, 108, 110, 112, 1

22~124, 128~130, 133, 135, 212, 239,

249, 250, 252, 280, 282, 291

ロドリゲス、ジョアン 292

わ

鷺尾隆康 291

渡辺蓬島 177

【庭園・建築名】

あ

葵亭 **151**朝倉彫塑館(朝倉文夫邸) **79, 309**

麻生本家 158

粟田山中邸 42

安藤家住宅小蘭亭 **72**

い

伊藤家住宅三楽亭(北方文化博物館三楽

亭) 157, 309

絲原家 181

稲畑氏和楽庵・稲畑邸 14, 27, 42

(旧)岩崎京都別邸 →流響院

岩佐邸 6

う

上西邸 42

え

詠帰亭 141

海老名家住宅団雪庵 **71, 308**

お

桜雲台 227

大隈重信邸 5

大沢の池 247

小川流三清庵 315

小栗家住宅 **66, 312**

か

何有荘 117, 316

皆如庵 46

(水戸)偕楽園 308

学温園 229

郭家 **262**

(旧)柏倉家住宅 158, 241

画神堂庭園 179, 180

霞中庵 117, 145

華中庵 26, 42

藤田伝三郎	20, 169, 300
藤村庸軒	293
藤本鉄石	103
藤森弘庵	65
藤山雷太	171
藤原定家	55
藤原冬嗣	110, 128~130, 138, 247

ほ

帆足杏雨	49, 177
方巖(八橋壳茶禪翁)	222
細川忠利	243
細川綱利	80, 243
堀河護麿	259
堀河康親	88, 259, 285
堀口捨己	24, 34
堀親正	268
堀礼造	268, 269
本多錦吉郎	187
ポンティング、ハーバート	197, 198, 199

ま

前田綱紀	245
前田夏蔭	289
前田齊泰	62
横村正直	106, 178
益田克徳	85, 295
益田孝(鈍翁)	15, 24, 170 , 284, 295, 296
松井鈞古	226, 228, 229
松井楓川	106, 227, 233
松井廉	228, 229
松方正義	172
松平定信	248~250
松平頼重	60, 245, 246
松平頼常	60
松平頼恭	245
松田宗貞	188
松永耳庵	171, 172
松久永助	160
松本幾次郎	6
松山卓爾	228
松山与兵衛	228
松浦詮	142

み

水谷鶴松	227
水野忠成	273, 278, 294, 295
三井高善	171
三井高福(八郎右衛門)	284
明恵	108
妙法院宮真仁法親王	249

む

陸奥宗光	263
村上和光	226
村瀬栲亭	49, 217, 232, 249, 295
村田宗珠	291, 292
村山龍平	169

め

明治天皇	276
------	-----

も

モース、エドワード	270, 271
本位政五郎	145 , 151
森居易斎	229
森五石	57
森林右エ門	229
諸岡存	32, 33
諸戸清六	171

や

八木甚兵衛	21
梁川紅蘭	253
梁川星巖	251, 253, 254, 259, 285
矢野仁一	32
山県有朋	5, 6, 9, 12 , 20, 22, 25, 43, 85 , 104, 238, 255, 284, 296
山階宮晃親王	285
山科李溪	102
山田子襲	57
山中吉郎兵衛(春篁堂)	105, 173, 225, 229
山中定次郎	42
山中信天翁	106
山内容堂	106, 286
山元春拳	74, 75, 117, 145, 147
山本徳潤	221, 231
山本梅逸	39, 65, 105, 226

つ
塚本与三次 42
辻孝篤 222
續英常 80
椿椿山 235, 267

て
天沖真一 177

と
陶淵明 22, 109~111, 131, 133, 135, 141
道澄 288
徳川治宝 257, 258
徳川光圀 245, 246
徳川慶勝 285
徳川頼房 245
徳大寺公純 239
戸野琢磨 140, **144**
土橋嘉兵衛 26, 174, 297
富岡鉄斎 21, 89, 91, 162, 259
豊田藤太郎 269
豊臣秀吉 26, 98, 280, 284

な
内藤湖南 21
内藤鳴雪 21
中川久成 178
長沢伴雄 258
中島蘆舟(俊司) 64
中埜又左衛門 226
中林竹溪 226
中林竹洞 65, 226
中村漁村 254
中村蘇人 95
夏目漱石 145, 259
鍋島直澄 119
並河徳子 193
並河靖之 184, 188, 189, **192**, 200, 201, 238
檜林忠男 →小川後楽(六世)

に
西川一草亭 21, **22**, **24**

ね
根津嘉一郎(青山) 284, 298

の
野口小蘗 104
野崎玄庵 43, 168
野々村仁清 26, 244
野村徳七(得庵) 14, 15, 42, 107, 168, **174**, 284
野呂介石 257

は
梅園梅叟 300
売茶翁(高遊外・柴山元昭) 18, 40, 48,
50, 78, 88, 99, **100**, 108, 109, 113, 114,
119~124, 128, 129, 136, 177, 216, 222,
223, 232~234, 241, 247, 252, 258, 280~
282, 286, 290, 294
売茶東牛 222
白居易 97, 109, 110, 117, 129, 130, 132~
134, 137, 138
橋本閑雪 76, 82, 117, 145, **147**
橋本竹下 251
長谷川瀟々居 104
八条宮智仁親王 243
浜田松僊 222
早川周造 158
林新助 26, 174
原三溪 171, 172
ハリス、タウンゼント 257
伴蒿蹊 120, 286
范仲淹 245

ひ
平野五岳 68, 69
広瀬淡窓 256

ふ
封演 97
深田精一 221
深津宗味 168
藤井厚二 24, 25, 162
藤田耕雪 27
藤田香雪(伝次郎) 284

コンドル、ジョサイア 14, **186**

さ

西園寺公望 14, **20**, 24, 239

西行 297

最澄 128

斎藤拙堂 65

彭城百川 102

嵯峨天皇

48, 97, 110, 128, 129, 134, 216, 240

佐久間象山 65

佐々木松墩 87

沢田実成 217

三条公修 258

し

重森三玲 146

シッドモア、エリザ・R

183~185, **187**, 190, 192, **194**, 199, 238

篠崎小竹 256, 295

渋沢栄一 296

島津重豪 244, 286

島津忠良 244, 285

島孟克 222

釈皎然 32

周高起 107

朱舜水 245

徐渭 99

松風嘉定 26, 42

聖武天皇 216

青蓮院宮 →久邇宮朝彦親王

新宮涼庭 262

す

末広雲華 257

菅原竹侶 156

杉田三郎助 106, 226

杉田尚綱 225

鈴木禎次 162

住友友純(春翠、吉左衛門) 14, 20, 21,

107, 168~170, 238, 284, 299, 300

せ

清談楼主人 221

関藤藤陰 254

釧雲泉 259

千宗左(碌々斎) 188, 191

千宗守(不徹斎) 191

銭椿年 98

千利休 165, 186, 190, 242, 286

そ

曾占春 220, 244, 286

宗長 291

た

大典顕常(蕉中) 102, 121, 216

タウト、ブルーノ 25

高島秋帆 65

高杉晋作 238

鷹司政通 275

高橋草坪 177

高橋義雄(箒庵) 7, 15, 16, 24, 26, 27, 43,

85, 168, 172, **295**, 301

高谷宗範 **172**

高谷恒太郎 169

竹内栖鳳 117, 145

竹内禎十郎 225

武田五一 24, 25

武市半平太 151

橘諸見 222

館柳湾 223

田中鶴翁 117, 223, 231

谷崎潤一郎 117, 145, **149**

谷鉄臣 255

谷文晁 248

田能村小斎 225

田能村竹田 49, 88, 102~104, 117, 119,

177, 210, 220, 223, 229, 230, 234, 249,

252, 253, 259, 262, 294

田能村直入 21, 27, 39, 40, 104, **177**, **180**,

223, 225, 232, 259, 298

田能村伝太 177

ち

チェンバレン、バジル・ホール

185, 187, 190, 197

竹邨桑者 229

張又新 97

趙元 136

仰木魯堂 171, 172
 大久保三笑 81
 大塩中斎 103
 大塚杉陰 223, 224
 鴻雪爪 64
 岡倉天心 96, 280, 281, 283, 286, 288
 尾形乾山 26
 岡本喜十郎 159
 岡本作太郎 269
 小川可進 87, 117, 222, 231, 259, 285
 小川其楽 89
 小川源兵衛 216
 小川後楽(6世) 18, 35, 182, 200, 291
 小川治兵衛(7代目、植治) 3, 6, 8, 14, 15, 16, 21, 23~27, 42, 85, 144, 146, 147, 151, 153, 193, 198, 238, 240, 259, 297, 299, 300
 小川白楊 42
 奥蘭田(玄宝) 106
 小沢圭次郎 19, 140, 141, 142, 144, 152
 小野田簡斎 254
 小原適 64
 小原鉄心 64, 65, 82, 104, 253, 285
 か
 郭百甫 263
 笠原方巖 258
 加島信成 226
 嘉納治郎右衛門鶴堂 172, 173
 亀井南冥 250
 亀田窮楽 102
 川上貞奴 160
 川上宗順 295
 川端康成 145, 151
 河村澄 221
 顔真卿 32, 114, 124, 125, 127
 菅茶山 250
 き
 徽宗 98
 北大路魯山人 72
 北尾春道 34
 北白川宮能久親王 192
 北村捨次郎 24
 木戸孝允 19, 104, 143

木下逸雲 210, 256, 259
 キブリング、ラドヤード 195, 199
 木俣石香 255
 木村兼葭堂 38, 49, 102, 210, 216, 217
 木村清兵衛 86, 297
 京極高豊 54, 211, 243, 244
 京極高中 54, 211
 堯恕法親王 99, 100, 123, 294
 許次紆 115
 く
 空海 110, 128
 草郷清四郎 170
 楠木正成 256
 久邇宮朝彦親王 192, 238
 熊谷直孝 105
 熊谷直行 106, 225
 黒川小樵 227, 233
 黒田天外 12, 13, 299
 桑原空洞 102
 け
 月譚道澄 99, 108, 123, 241
 玄々斎 168, 191
 こ
 小石元瑞 262
 河内寅次郎 70, 82, 242
 皎然 114, 124, 127, 133
 幸野樗嶺 178
 高濂 115
 小島佐一 146
 後醍醐天皇 210, 256
 後藤新平 171
 小西分史 226
 近衛忠熙 285
 近衛信尋 245
 小林卓蔵 106
 小堀遠州 289
 小松宮彰仁親王 192
 後水尾天皇 99, 100, 137, 246, 248, 287, 288, 294
 近藤康平 296
 近藤正一 3, 5, 6, 8, 85, 95, 140
 近藤芳樹 40

索引

*採録語句が章・節・項のタイトルに含まれる場合は該当頁をゴシック表記にし、その章・節・項内からは採録を省略した。

【人名】		伊藤祐民	162
		伊藤利兵衛	264
		伊藤博文	104
		稲畑勝太郎	42, 117
		井上馨	170
		今井定次郎	26
		今井八方堂	174
		岩倉具視	285, 286
		岩崎鷗雨	254
		岩崎小弥太	117
		岩崎弥太郎	151
		岩崎弥之助	106
		岩田嘉平(嘉兵衛)	44
		隠元隆琦	48, 99, 100, 123, 137, 287, 288
		う	
		植熊	151
		植治	→小川治兵衛
		上田秋成	36, 38, 49, 87, 88, 103, 113, 116, 119, 217, 230, 232, 241, 250, 252, 285
		上田宗箇	242, 243
		上田光美	40
		上野理一	169
		宇野士新	102
		え	
		栄西	108, 109, 216
		永忠	97, 128
		永楽保全	257
		海老名久松	71
		江馬細香	253
		袁高	124, 125
		圓能斎	191
		お	
		王羲之	244
		大枝流芳	49, 88, 102, 115, 116, 216, 230, 288
あ			
青木木米	26, 49, 102, 232		
秋里籬島	186, 294		
朝倉文夫	79		
浅野重晟	243		
浅野長晟	242, 243		
安積良斎	65		
阿部正弘	254		
有神蜻洲	230		
安藤栄吉	64		
い			
飯田十基	6		
井伊直興	59		
井伊直弼	239, 254, 255		
井伊直中	254, 255		
飯山義方	223, 235		
池田章政	258, 286		
池田茂政	259		
池田綱政	244		
池田光政	244		
池大雅	102		
生駒高俊	60		
石川丈山	48, 97, 111, 115, 137, 222, 287, 289		
伊集院兼常	9, 192		
市河寛斎	250		
市河万庵	227		
一条忠香	285		
一色七五郎	172		
一指斎	191		
伊藤若冲	102		

執筆者紹介(収録順, *は編者)

*尼崎 博正 (あまさき ひろまさ)

1946年生。京都大学農学部卒業。農学博士。京都造形芸術大学教授。
『茶庭のしくみ』(淡交社, 2002年), 『七代目小川治兵衛』(ミネルヴァ書房, 2012年)。

*矢ヶ崎善太郎 (やがさき ぜんたろう)

1958年生。京都工芸繊維大学大学院工芸学研究科建築学専攻修士課程修了。博士(学術)。京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科准教授。
『茶湯古典叢書 五 茶譜』(共著・校訂, 思文閣出版, 2010年), 『描かれた都市と建築』(共著, 昭和堂, 2017年)。

*麓 和善 (ふもと かずよし)

1956年生。名古屋工業大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了。工学博士。名古屋工業大学大学院社会学専攻教授。
『日本建築古典叢書 9 近世建築書 絵様雛形』(大龍堂書店, 1991年), 『茶道学大系 6 茶室・露地』(共著, 淡交社, 2000年)。

六世 小川後楽 (おがわ こうらく)

1940年生。立命館大学文学部日本史学科卒業。小川流煎茶前家元(2016年9月逝去)。
『茶の精神をたずねて——時を追い、地を駆けて』(平凡社, 2013年), 『漱石と煎茶』(平凡社, 2017年)。

霊鷲 照石 (たまわし しょうせき)

1976年生。京都造形芸術大学大学院修士課程修了。臨済宗東福寺派吉祥寺住職。

武藤夕佳里 (むとう ゆかり)

1967年生。京都造形芸術大学大学院修士課程修了。博士(学術)。並河靖之七宝記念館主任学芸員・植彌加藤造園株式会社庭園研究開発室研究員・京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター客員研究員。
「並河靖之と万国博覧会——並河七宝と巴里庭をめぐる人びと」(佐野真由子編『万国博覧会と人間の歴史』思文閣出版, 2015年), 「靖之と植治——二人の魁と巴里庭をめぐる人々」(『並河靖之七宝記念館 図録 七宝の美空間 庭園と建物』並河靖之七宝記念館, 2012年)。

頼 純子 (らい すみこ)

1972年生。大阪教育大学教育学部教養課程芸術専攻。

七世 小川後楽 (おがわ こうらく)

1971年6月30日生。立命館大学法学部卒業。小川流煎茶七世家元。
『しっかりわかる、煎茶入門』(淡交社, 2010年)。

加藤 友規 (かとう ともしき)

1966年生。京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術専攻博士後期課程修了。博士(学術)。京都造形芸術大学教授。
「庭をつくるということ——100年の夢を楽しみながら、庭の景色を育む——」(『庭園学講座 XXIV 数寄者と庭の物語』京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター, 2017年), 「山縣有朋記念館所蔵の古写真に見る往時の無鄰菴に関する研究」(共著, 『ランドスケープ研究』80巻5号, 2017年)。

庭と建築の煎茶文化——近代数寄空間をよみとく

2018(平成30)年12月20日発行

編著者 尼崎博正・麓和善・矢ヶ崎善太郎

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話075-533-6860(代表)

表紙絵 川村悦子

装 幀 佐藤博一

印 刷 本 亜細亜印刷株式会社

©H. Amasaki & K. Fumoto & Z. Yagasaki 2018

ISBN978-4-7842-1944-5 C3070